

重度・重複障害のある児童生徒の「表現する力」を育成する授業研究

～ビデオによる授業分析と表情シートの導入によるアセスメントを活用して～

広島県特別支援学校教育研究会第1グループ

1 はじめに

重度・重複障害のある児童生徒の実態把握については、各学校で観点を定めているが、目標が抽象的になりがちで適切な評価が難しいという現状がある。学習指導要領には、「生きる力を支える確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた育成を重視している。(中略)課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむこと」とある。これらのことから、「表現する力」を育成するために、昨年度の研究に加えて表情シート等を導入して、研究を進めることとした。

2 研究仮説

ビデオによる授業分析を行い、複数の視点で目標設定・指導方法・評価を協議することで、授業改善が進み、児童生徒の表現する力がさらに向上するだろう。

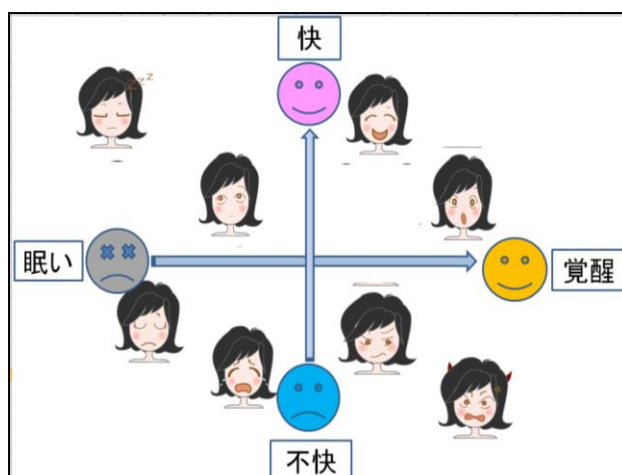
3 研究方法（今年度の新たな取組）

- (1) 重度・重複障害児のコミュニケーションに関するアセスメントチェックリスト¹を活用することで同じ視点で協議する。
- (2) 表情シートを導入することで、客観的に児童生徒の環境要因や心理的影響を把握する。
- (3) 校内でビデオ分析を経時的に行い、複数の視点で評価する。

4 表情シート

今年度、『重度・重複障害のある子どもの興味の広がり」と自発的な意思表示を高める指導』²に記載されている「快-不快チャート」を参考に、研究スタッフ内で独自の表情シートを作成し、研究を行った。これは個々の児童生徒の実態に応じて作成するものである。

右の図のように、児童生徒の快不快の表情や覚醒の状態をチャートに示し、客観的に評価できるよう作成した。また、体調の良し悪しや姿勢等を指標として位置付けたものもある。「こんなとき、こんな反応をする」とまとめることで、普段かかわりのない人にも実態把握の手助けになることや、作成者も改めて実態把握をすることができることを目的とした。



5 まとめ

	成果	課題
表情シート	<ul style="list-style-type: none"> ○感情や表情を一覧で見ることができ、担任や保護者等の関係者で共有できる資料であった。 ○健康状態を確認しながら、課題や支援を設定することができた。 ○実態把握や次年度の引き継ぎ資料として有効であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者等の関係者と連携して作成していく必要がある。 ○指標を定める必要がある。 ○実態の変化に応じて更新していく必要がある。
ビデオ分析	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の教師で課題を共有することができた。 ○児童生徒の変化や教師の支援、働きかけを客観的に見ることで改善することができた。 ○目標を達成したかを行動等で確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ビデオを見る観点を決めておく必要がある。(改善点、教師の支援、児童生徒の様子等) ○協議する際の観点(教材の提示方法、姿勢等)

ビデオによる授業分析の結果、児童生徒との関わり方を客観視することができた。また、複数の視点から意見を聞くことで、授業改善につなげることができた。教師自身が変容することで、児童生徒の表現する力の向上につながった。

¹ 福山特別支援学校『重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト - 認知・コミュニケーションを中心に - 』

² 森智美・船橋篤彦(2014)平成26年度愛知教育大学内地留学研修報告書